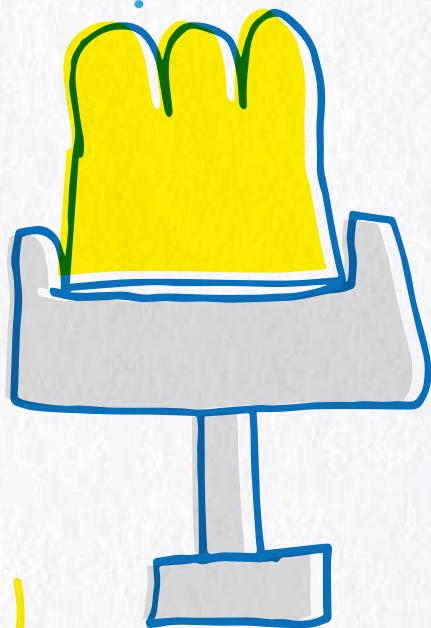


カルミア



ゼンシ

Vol.
223

2024.Aug.



ごあいさつ……………2

特集

外出……………5

新人異動職員紹介……………7

連載

おもいのツボ……………3

對馬のさやまアルアル言いたい〜…11

ギャラリー……………13



ごあいさつ

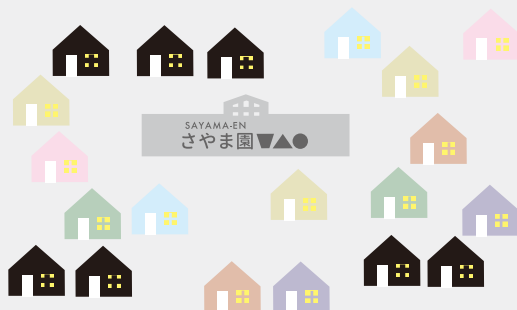
カルミアは東村山市富士見町にある知的障がい者入所施設さやま園が年3回発行している機関紙です。

カルミア発行から10年の節目にA5サイズの手に取りやすい冊子形状にリニューアルしました。

地域に根ざした場を目指し、カルミアが私たちと皆さまとの架け橋となるように、今までの読者の方はもちろん、新たな読者の方にも楽しく私たちのこと、また福祉を通して得た私たちの気づきなどを伝えていきたいと思っています。

引き続き宜しくお願い致します。

私たちの目指す社会



多くの利用者の方を地域に送り出し、地域との関係性を築いてきたさやま園。この経験を活かして、今度は地域の方々にもさやま園に足を運んでいただけたら。地域一さやま園グループホームのつながりから、人・コト・モノが相互に行き交う社会を創れたら。

利用者さんが住みやすい社会、それは誰もが生きやすい社会なのではないかと私たちは思っています。



おもいのツボ

毎年7月に全国的障がい施設長会議があり、今年も全国の施設長が集まって講演が行われました。

その中で3点印象に残ったことがありました。

一つ目は人材確保・育成。

福祉は社会になくてはならない業界です。対人援助の専門スキルが必要な専門職です。もともと自分達の仕事を評価して、誇りを持ち続けなくてはいけないです。そのためには自己研鑽を伝え続けていき、福祉業界が社会にアピールしていく必要があります。

また採用してからの人材育成プログラムが重要で、仕事内容だけでなくやりがいや福祉の哲学を伝えていく必要性を感じました。

二つ目は入所施設の存在。

近年国連から勧告を受けて、入所施設の定員を減らして地域移行する流れがあります。

しかし入所施設は今後も必要です。今全国2万人以上の障がい者の方の行き場がないそうです。支援や医療が充実している入所が求められるのは当然かと思えます。

「おもいのツボ」は毎号さやま園の職員がその時自身のツボにきた出来事や感じたことを書く企画。リニューアルしたカルミア初回に登場するのは三瓶園長です。

世間のいう地域移行がグループホームだけでなく、入所施設も地域であるとアピールすることが大切なのではないか。そのために閉鎖性を減らす。第三者の目を増やす。地域に必要なある社会資源であることをアピールし努力することが大事です。

そして地域の富士見町の住民が知っている存在にならなくてはいいけません。

三つ目は利用者さんの意思決定。

意思表示が難しい利用者さんの想いや考えをくみ取った意思決定ができる機会を増やしていくにはどのようにしていくか職員と共に考え努力していきたいです。

最後にこの仕事は利用者さんの幸福追求です。できない理由を言うことは簡単です。できるようにするために考えチャレンジするプロセスが大事であり、仕事のやりがいに繋がると思っています。そんな職員集団を形成できるように努めていきたいです。
そんな仲間達が今後を増えることを願っています。

さやま園 園長 三瓶達矢

外出

やっぱりみんな外が好き

「さあハンバーグを食べに行きましょう！」

6月、あんず・かえでグループ4年ぶりの外出がありました。この数年コロナ禍によって外食どころか買い物さえ行けない状況が続いていましたが、昨年からは徐々に外出の機会を増やし、ついに昼食の外出が実現しました。

当日の天気は晴れ、利用者さん6名と職員3名で近所のハンバーグ店までドライブして行きます。行きの車内は、昔行っていたお店の話で盛り上がり、外の景色を眺めたりとワクワクした気持ちで溢れていました。

お店では久々の外食だからか、なかなかメニューが決まらず……迷った末に好きなハンバーグプレート、ドリンク、デザート注文。

ハンバーグは食べやすいワンプレートでした。しかしデザートソフトクリームは小さな容器いっぱい盛られていて、ソースが机にポタポタ垂れてしまい、利用者さんも職員も大慌てで拭き、その様子を利用者さんはクスクス笑うなど。

久しぶりの外食はそんなハプニングもありましたが無事に帰る事ができました。後日利用者さんに感想を聞いてみると、「楽しかったね。今度は違うところにも行ってみたい。私チキンライスが好きなの(笑)。だからそういうの、オムライスとか、ナポリタンがあるお店に行きたいな。」と今後の外出も楽しみにしている様子でした。

あんず・かえでグループも含め、今年はさやま園全グループが外出を再開しています。次はどこに行きましょうか。お楽しみに！



外食に行く車中

外食に行く途中の車内。手前左から松本さん、長谷川さん、奥の左から中田さん、白木さん、田中職員。カメラを持った木場職員が「撮りますよー」と声をかけるも皆全くタイミングが合わず何度か取り直した写真の中の1枚。



レストラン内のみんなの写真

手前のテーブルは橋本さん（左）、松本さん（右）、栗原職員（男性）が、奥には他のメンバーが、料理が届くまでワクワクと待っている様子。



ハンバーグプレートを楽しむ橋本さん

普段とは違うワンプレートの食事でしたがいつも通りのペースで食べる事ができました。また、昔（さやま園に入所する前）はよく食べに来ていたから久しぶりに来ることが出来て嬉しいと話していました。





今年度も新しい職員がさやま園にたくさん仲間入りしました。他施設から異動されてきた3名、学校卒業後にさやま園へ就職された4名をご紹介します。皆さんで「げんきで・えがおで・たのしい」さやま園を作っていきますよう！
よろしく願います。

質問

- 1 どうしてこの仕事を選びましたか？
さやま園の印象は？
- 2 (入職して数ヶ月振り返ってみて、
どうでしたか)
- 3 実はこんな特技があります😊
- 4 一言コメント(自己紹介や抱負など)

- 1 学生時代、福祉系のボランティアサークルに入っていた縁で・・・
- 2 にぎ賑やかにみんな元気に動き回っている印象、職員の方々も笑顔ではつらつ滂瀾としている感じを受けた。
- 3 さつかん礼勤。紙幣の勘定(縦読み、横読みとも50枚まで可)
- 4 最近あまり行かなくなりましたが、映画館で映画を観る事が好き。美術展とかに行くのも好きです。スポーツは野球が大好きでプロ野球は昔からライオンズのファン。最近はめっちゃ弱いですが・・・。わかばの一員として貢献できるように頑張っていきたいと思っております。よろしく願います。



ほや みのる
穂谷 稔
わかばグループ
生活支援員



かがわ かつみ
加川 勝己
副園長

- 1 きっかけは、大学3年の時に友達に誘われて参加した、特別支援学校の修学旅行の付き添いです。必要な支援さえあれば障がいがあっても充実した生活が送れると知り、仕事として興味を持ちました。
- 2 とにかく利用者さん、職員の皆さんの笑顔が多いと感じます。利用者さんの笑顔につられ自然と周りも笑顔になる暖かい環境がとても良いです！
- 3 アウトドアが好きで、キャンプ飯作りがめちゃくちゃ楽しいです！得意料理は「炙りチャーシュー丼」です！老後は山で過ごすことを夢見ています。
- 4 3人目の副園長ということで、なかなか絡みづらいとは思いますが、困ったことがあれば何でもご相談ください。「げんきで・えがおで・たのしいうさまえん」というさやま園のモットーが、利用者さん・職員の皆さんの意見や創意工夫で達成できるように貢献していきたいと思っています。よろしくをお願いします！

- 1 人と関わりながら、その人の助けになれる様な仕事がしたいと思い、福祉の世界に飛び込みました。気づいたら10年以上も経っていました。
- 2 利用者の皆さん、職員の皆さん共に「パワフル」で賑やかな施設だな〜と感じました。あっという間に数か月がたち、今は皆さんと楽しくお話をするのが楽しくて仕方がありません。
- 3 特技と言えるものはないですが、昔はよくボーリング、ダーツ、ビリヤードをしていました。特にボーリングにはまり、目標300点を目指して日々頑張っていました。
- 4 1階事務所で皆さんからのご相談をお待ちしております。些細な事からちょっとした愚痴でも無料ですのでお気軽にお声掛けください。健康第一で皆さんと楽しく過ごしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願い致します。



くりはら よしふみ
栗原 好史
相談支援専門員

- 1 昔から障がい者に対する介護に興味を持っていたので、この仕事を選びました。
- 2 スタッフの方々が皆さん優しく、全体的に温かい印象です。
- 3 演劇部に所属していたため、演技は何気に得意です。
- 4 利用者・職員共に和気あいあいと仲良く、楽しみながらやっていたいと思っているので、仲良くしてくれると嬉しいです。新卒のため、本当に何もわからないのですが、何卒ご指導ご鞭撻べんたつのほどよろしくをお願いします。



あおき ゆう
青木 悠
わかばグループ
生活支援員



ひぐち
樋口 くるみ
かえでグループ
生活支援員

- 1 人と関わる事が好きで、福祉の仕事に携わりたいと考えていたため、資格取得を目指し福祉学科に進学しました。実習やボランティア活動を通して障害のある方々と関わり、障がい者支援に興味を持ったためこの仕事を選びました。
- 2 職員も利用者も、元気で優しい方が多く、明るい雰囲気施設の設かたを感じています。フロア関係なくたくさんの方が話しかけて下さることがとても嬉しいです。少しずつさやま園での生活に慣れてきて、毎日楽しく働いています！
- 3 幼少期から着付け教室に通っており、着物、袴の着付けが出来ます。大学の卒業式の際は、自分だけでなく友人の着付けも行いました。
- 4 体調管理をしっかりとし、「げんきで・えがおで・たのしい」さやま園の一員として、自分に出来ることを精一杯頑張っていきたいと思えます。至らない点が多くご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



しまだ もえ
島田 萌恵
つくしグループ
生活支援員

- 1 以前から福祉全般に関心があり、福祉学科のある大学に進学しました。大学時代は移動支援のアルバイトを行っていました。アルバイトを通して障がいのある方々の価値観や人間らしさに面白さを感じ、もっと関わってみたいと思いこの仕事を選びました。
- 2 すれ違うたびに挨拶や会話がったり、行事を全力で楽しんだりする姿をみて、まさに「げんきで・えがおで・たのしい」さやま園だと思いました。フロア関係なく様々な方が話しかけて下さり、大きな励みになっています。
- 3 幼少期からチェロやサクソ等の楽器をやっていました。中学、高校時代には吹奏楽コンクールの全国大会で金賞を受賞したことがあります。
- 4 たくさん見て、聞いて吸収し、目の前のこと一つひとつを、楽しみながら勉強していきたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

1 学生時代から、人と直接関わることのできる仕事に就きたいと考えていました。大学では社会福祉学を専攻していたので、福祉業界で学びを生かしていこうと思いました。

2 利用者さんも職員さんもみなさんとっても元気な多い印象を受けました。毎日たくさんの刺激やエネルギーを貰いながら仕事をさせていただいています。

3 体調を崩さないことです。中学・高校時代は無遅刻無欠席の皆勤賞を頂きました。環境が変わりまだ慣れない事ばかりですが、今後も体調管理に気をつけ元気に働いていきたいです。

4 利用者さんの強みを引き出していけるような支援員になりたいと思っています。そのため利用者さんと積極的にコミュニケーションを取ることを心がけており、信頼関係を築いていけるよう頑張っています。よろしくお願いいたします。



さとう はな
佐藤 花夏
つくしグループ
生活支援員

副園長 対馬つしまの

さやま アルアル 言いたい～!

これはさやま園の特徴?傾向?文化?愛すべきさやま園アルアルを昨年着任した副園長目線で紹介してきました。これまでは職員のアルアルでしたが、今回は利用者さんアルアルを伝えたいです。

園は 40 年以上在籍されている方が全体の 25%を超えています。人生の多くをさやま園で過ごし、お若いころから様々な生活習慣を身に着けられたのだろうと感じることが多いのです。

では、さやまアルアル言わせてください。





丁寧な生活習慣がすごい

私が月に一回夜勤をしていると感ずること。朝、「おはようございます」とカーテンを開けたりしていると目覚める利用者さん。起きたその後になさることは、なんと、お布団をたたみ。布団の四隅をあわせ、丁寧にたたむ。そしてきれいにベット上に置く。車いすで生活されている方も、できる範囲でたたむ。職員のたたみのお手伝いが甘いとやり直しとおっしゃる方も。現在はベットで生活される方がほとんどですが、以前は畳のお部屋で毎日毎日、布団の上げ下げをしていらしたんだなと感ずる瞬間です。

食事前、お手洗い後に手を洗う。コロナ禍前から習慣になっていたのよくわかります。歩行器使用のかたも、体のバランスをとって洗う。

当たり前のようで当たり前にできないことも多い丁寧な暮らしぶり、素敵です。



▼▲●
ぎゃらりー

今年も東久留米市・市民プラザホールにて2月14～16日の三日間にわたり第16回多摩六都フェア「ぴゅああくと展」が開催されました。

「ぴゅああくと展」とは、多摩北部都市広域行政圏協議会（小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市）の圏域5市に、在住・在勤・在学の障害のある人が応募した作品の中から、専門家によって選考された作品のアート展です。

今年には地域内28事業所の個人・グループの応募作品313点から、審査により選ばれた絵画・彫刻・書・工芸・手芸などさまざまな分野にわたる88点の作品が展示されました。

さやま園からは、陶芸・造形・手芸で活動されている、高木さん・薮崎さん・鬼頭さん・大野さん4名の方の作品が入選し、2月15日に実際にぴゅああくと展

を観に行きました。

運転職員の、陽気な「しゅっぱ〜っ♪」という掛け声と共に市民プラザへ向かっていった御一行様。ハイテンションな薮崎さんは終始話が止まらず。行きの車内はとても盛り上がっていた様子。会場に近づくにつれ、わくわく、そわそわ・・・

展覧会場で、まず最初に展示されていたのは高木きよのさんの作品。約半年間、毎日こつこつと作り続けた貼り絵の作品と、横に並んで素敵な笑顔で写真を撮っていました。

ビーズでアクセサリを制作した薮崎さんは、会場に来ていた見ず知らずのお客様さんにも声をかけ、自身の作品を宣伝していたそう。さすがです。

入選常連の鬼頭さんは、貫禄のある姿で自身の絵を黙って見つけていました。



1. 高木基代乃さん『貼り絵の窓』
2. 藪崎 静香さん『世界にひとつのアクセサリー』
3. 鬼頭 和則さん『暗やみから光へ』
4. 大野 和子さん『めざせ！ひょうたん職人』



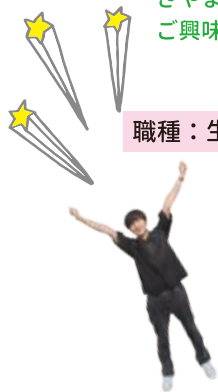
大野さんは、陶芸で制作したたくさんのひょうたんが並べられているのを見て「私の作品だ〜♪」と嬉しそうににっこり。4名それぞれびゅああ〜と展の雰囲気を楽しんでいた様子。最後に全員で記念撮影をし、会場を後にしました。

帰りの車内は、疲れたのか皆さんすやすや……。来年のびゅああ〜と展も楽しみです。お疲れ様でした。



職員募集！

さやま園では私たちと一緒に働いてくれる方を募集しています。
ご興味のある方はホームページのお問い合わせフォームかお電話でご連絡ください。



職種：生活支援員

●常勤職員（契約社員/1名）18歳~70歳まで 月給¥238,300
シフト制による週休2日（夜勤あり）

●パート職員（1名）18歳~70歳まで 時給¥1,175~
シフト制（時間相談可）

*未経験者可（研修が充実しているので安心して働けます。） *正社員登用あり



さやま園のホームページ
お問い合わせフォーム
<https://sayamaen.com/new-contact>

問い合わせ先 TEL: 042-391-3275

リクルート担当：三瓶^{みかめ}・柿木^{つしま}・對馬

ボランティアさん募集！

さやま園では様々な活動をしています。
そのお手伝いをしてくださる以下のボランティアさんを募集しています。
ご興味のある方はご連絡ください。

1

作業内容：季節に合った装飾作り
活動日時：平日の13:30~15:30

- ・利用者さんが余暇の時間に制作する、季節の装飾作りの土台となるものを制作していただける方を募集しています。
- ・活動に入る前に、職員より、活動の流れ等を簡単に説明します。
- ・ボランティアの皆さんには、下絵を描いてもらったり、装飾のパーツを作ってもらったり、利用者さんが簡単に制作に取り掛かりやすいよう装飾作りの準備をお願いいたします。

2

作業内容：利用者さんの手芸作品の仕上げ作業
活動日時：月曜日・金曜日 13:30~15:30

利用者さんの手芸作品の仕上げ作業をしていただける方を募集しています。作品は刺しゅう・カバン作り等様々です。作品に応じて手芸の内容をお伝えします。



寄付のお願い

依頼品目：消毒用タオル

感染症予防のための園内消毒に使用する布が不足しています。いらなくなったタオルを**手のひらサイズ**に切ってご持参いただけると助かります。

問い合わせ先 TEL: 042-391-3275

ボランティア担当：長田^{おさだ}
寄付担当：柿木^{つしま}・對馬

